

# 6次産業化を初支援

農林水産業の6次産業化を推進する薩摩川内市は、市内を拠点に和牛の生産肥育・販売の神田畜産（神田和喜社長）が提出した6次産業化実施計画を承認し、補助金を出すことを決めた。4月に施行した促進条例に基づき、店舗建設や商品開発を後押しする。認証は同社が初めて。

## 新店舗，雇用増も

承認は16日付。同社は11月末に、JR川内駅に近い東向田町に新店舗を開く予定。加工設備を併設した約310平方メートルの店舗で、精肉をはじめ、地元の新たな土産品としてハムやベーコンを販売し、新幹線利用客の獲得を図る。市内からパートを含む10人程度の雇用を見込む。

市は本年度、6次産業化を目指す農林漁業者や団体に補助金を交付する独自の制度を創設。事業者は最長5年間の実施計画を提出し、認められれば施設整備費の一部（上限3千万円～7千万円）など手厚い補助を受けることができる。

神田畜産には本年度、店舗建設や加工機材購入の費用に最大5,300万円を補助する見込み。ほかに計画に関する相談がこれまで、10件程度寄せられているという。

同社の神之田繁則専務は「生産から販売まで手がける自社の取り組みが認められた。客のニーズに対応する手作りの商品を地元や全国に発信したい」と話した。（梅下陽一）



6次産業化実施計画の承認書を手にする神田畜産の神之田繁則専務（中央）

＝薩摩川内市役所

<http://www.city.satsumasendai.lg.jp/www/contents/1395899521979/index.html>

<http://www.city.satsumasendai.lg.jp/www/contents/1398402427868/index.html>

平成26年7月26日（土）／南日本新聞